

6 課 買うのを 忘れた！

1 章 今は…、日本に来る前は…

➡➡➡ 日常のどんなところで使っているだろう

<～は～けど、～は～>

関節が折れてしまったすわいガニの脚です。形は不ぞろいですが、新鮮で味は抜群。生ならではのおいしさを満喫できます。

(通信販売・「ワケあり食品」)

あのルーキー、人気は上々だけど、実力はどうなの？

(時の人の下馬評・会話)

結婚前は、ちょっとした値段の違いは気にならなかったけど、いまは、スーパーのチラシを見るのも真剣です。

(朝日新聞投書欄／2009 年 8 月 4 日)

看護師として働いていたときは、介護チームとも相談して、できる限りのことをした。でも、患者の立場を経験した今は、もっとできることがあったと思う。

(朝日新聞「命のともしび」／2011 年 2 月 11 日)

◇◇◇ 助詞「は」を使って話しましょう

文 法： 助詞「は」

表現の形： ～は……（けど）、～は……

表現意図： 事柄の二つの側面を述べて、全体像を伝えようとする
二つの面の取り上げ方に、話し手の意図や価値観が出る

👉 これだけは押さえておこう—— 助詞「は」の働き

助詞「は」を二つ組み合わせて使います。

セクション A B とも、事柄や人物などの対比する二つの側面を取り上げて、説明をしたり描写をしたり、疑問をなげかけたりします。

そのとき、二つの側面を<～は～（けど）、～は～>と取り立てるのがこの章の「は」の働きです。

どんな側面に焦点をのぼるかは、話し手が、何を伝えたいかによります。

セクション A



イラスト版 p. 9

クラスの前に準備すること

【1】 A (例) を使って、<～は～けど、～は～>の働きを捉えよう

A の課題は、『日本に来る前と今とで、あなたの生活は変わりましたか』という問いに答えることです。

主婦のマリアさんと、留学生の劉さんが、「日本に来る前」と「今」の自分の変化を語っています。

イラストを見て、次の三点に注目しましょう。

- ① 話題は何か
- ② どんな側面を取り立てて比べているか
- ③ 何を伝えようとしているか

ステップ1 <～は…（けど）、～は…>の働きに目が向くような質問を用意する

マリアさんの「今」と「日本に来る前」について話し合います。

- ・ マリアさんの生活は、今は、どんなですか。 (子育ての毎日・主婦…)
- ・ 日本に来る前は？ (ホテルのフロント係)
- ・ マリアさんは、何を話題に選んでいますか。 (自分のキャリア)
- ・ マリアさんは、ホテルでアルバイトをしていたと思いますか。

それともキャリア・ウーマンだったと思いますか。

十分話し合ってから CD で、「今は…けど、日本に来る前は…」の部分を聞きます。リピートして、文の形と音声を身につけましょう。

- ・ マリアさんは、今の生活と、日本に来る前の生活との違いを言って、自分を紹介しています。マリアさんが伝えたいことは何でしょう。

(自分はそろそろ仕事をしたい・キャリアを生かしたい・保育園の情報がほしい etc.)

続いて、せりふの後半「日本でも働きたい…」をCDで聞きましょう。

- ・ マリアさんは、誰に向かって話していると思いますか。

もう一度全体を聞き、マリアさんになったつもりで言ってみましょう。

クラスワークの進め方

【1】 (例) マリアさんの場合を使って、「は」の働きを理解しよう

「クラスの前に準備すること」を参考に、**ステップ1** に沿って進めてください。

▶ イメージを共有するための「やりとり」のコツ — 実践報告

用意した質問を使いますが、ヒントを出すまでもなく、イラストを見て話が活発に進むときは、その流れを大切にします。その場合でも、話が本論から外れて雑談に流れそうになったときは、「ところで…」と、話を切り替えるために、用意した質問を利用するといいです。自由な話し合いが、文型や内容の理解に向かって進んでいくように、ヒントをその舵取りに使いましょう。

以下に、問いかけが、こちらが意図したものとは違う方向に向いてしまったときのことを紹介します。

進行役：F (Facilitator) 学習者：A、B、C、・・・

F： イラストを見てください。今のマリアさんと、国にいたときのマリアさんです。

今、マリアさんは何をしていますか。

(期待する答：子そだて中です、主婦です etc.)

A： ミルクを飲ませています。

(あれ、話の向きが違う方へ行きそう!!)

(反省：今はと言わなかったのがいけない。今と言ったから進行形に取られてしまった。あちらの正解!)

F : 確かにミルク 飲ませてますね。 (と受けてから、軌道修正にのりだす)

マリアさん、赤ちゃんのオムツも替えるし、お風呂にも入れるし、洗濯も
すると思うけど、そういう母親の仕事、まとめて何て言います？

(期待する答：子そだて)

B : 子そだて。 (うまくいった！)

F : 子そだてのほかに、マリアさん何をしているでしょう？

(期待する答：家事のあれこれ)

B : 何もしてない。 (あれ、また外れた！)

F : 何もしてないってことないでしょ？ でも何もしてないってどういうこと？

(受け止めながら、発話者の気持ちを探る)

B : アルバイトしてない。この絵の人そんな感じ。

(なるほど、この絵はそう見えるわ)

F : そんな感じって、どんな人？

A・B・C・・・ 「お金持ち！」 「子そだてだけ、楽でいいね」

「でも、奥さんってたいくつだよ」 「 がやがや・・・」

F : マリアさん、今の自分のこと、言おうとしているんだけど、「今は奥さんです」
とか、「今はお金持ちです」とは言えないでしょう？

C : 今は、子そだてしています。 子そだて中です。 (この発言、そのまま採用！！)

テキストに書いてあるからといって、「今は主婦です」と固定することはありません。

F : テキストでは「今は、主婦です」って言ってるけど、「子そだて中です」
でいきましょ。

マリアさん、今は、子そだて中ですけど、日本に来る前は どうでした？

と、もう一つのイラストに移りました。

イラストのマリアさんの仕事は何だろうということで話は盛り上がり、アル
バイトかキャリアかという問いかけは、キャリアということで収まりました。

最終的には、マリアさんはそろそろ仕事がしたくて、自分をアピールしてい
るんだというところに落ち着きました。

主婦を「楽だね」と捉える人、「たいくつだ」と捉える人。アルバイトをして
いない生活を「何もしていない」と表現する人。いろいろな思いが伝わってき

ます。

時間があれば働きに出るのが当たり前で、「主婦」という境遇が、そのときの参加者には実感をもって受け止められていないと感じました。

問いかけを重ねて、対話を成立させよう

何かひとつヒントを出すと、学習者の頭は動きだします。

準備段階で用意する質問は、表現の元となる発想を育てるためのヒントです。Q&Aではありません。発想は自由ですから、回答は一つではありません。当然、個性が出てきます。自分の考えを、自力で組み立てて発話することで表現する力が育ちます。

ヒントに刺激されて、どう話が進むかは、そのときの参加者によって異なります。学習者の反応を受け止めながら、マリアさんの立場、気持ちをイメージできるように話し合う。その時に出てくる個々の考えや意見の中に、お互いを知り合う大切なメッセージが含まれているはずです。

質問という切り出しから、答という着地点までは、ジグザグの「やりとり」があるのがふつうです。一度で思い通りの答が返ってこなくても、そこからイラストの人物の立場や気持ちについての対話がスタートするのですから、あきらめしないで、意図を持って問いかけのことばを工夫してみましょう。

【2】 劉さんの場合をやってみよう

マリアさんの例にならって、「国にいたときはどうだったか」「今はどうか」「何を伝えたいのか」を一つずつ話し合ひましょう。続いて、劉さんになったつもりで一つの文にまとめます。まず吹き出しに書き込んでから、発表してもらいましょう。

その後CDを聞いてリピート。CDの「劉さん」も一つの例にすぎません。

▶ 思ったことを率直に話せる場に！

「留学生劉さんは、何が伝えたいのでしょうか」という問いかけへの、あるクラスの反応を紹介します。

「毎日、大変だ〜！」という声でした。

「じゃ国にいたときは？」 「気楽でよかった〜！」

「自分が成長したとか、自立したとか、親のありがたさがわかったとかいうことじゃないの」

「建前はね」

「国にいたときは親が何でもしてくれたから気楽だったけど、今は全部自分でしなくちゃならないからた〜いへん!」と、これが劉さんの本音だということでした。文末が「します」から「しなくちゃならない」に変わっていました。

クラスは、自分の思うことを率直に、心おきなく表現できる場でありたいものです。こうあるはずだという、日本人側の教育的なにおいのする思い込みを押し付けることのないよう気をつけましょう。

< 自分のことで話しましょう >

文の構造の理解が進んだら、次の表現の形を使って、自分の変化について話してもらいましょう。

表現の形： 今④.....けど、日本に来る前④.....。

滞日年数の長い人には、<今と〇〇年前>を比べて話してもらってもいいですね。話したことは、あとで書いて作文として残しましょう。

日本人も自分について話す用意をお忘れなく。例えば、<××を始める前と今><在職中と退職後><結婚する前と今>の変化などについて話すのはどうでしょう。お互いを知り合うチャンスですから、必ず用意しておきましょう。

▶ 不十分な日本語に潜む真意を察知しよう — 実践報告

「三年前は運転免許がない。今はある。」という事実を対比させて、生活の変化を話したい学習者がいました。話し好きで、語彙は豊富ですが、文を構築できないために、単語を並べたような取りとめのない話になってしまいます。自分の気持が伝わっていないことに気がつくと、自分から引き下がってしまいます。そういう場合、原因は、引っ込み思案だったり、遠慮であったり、ときに、自尊意識の問題であったりします。

だれか話そうと口を切ったときは、最後まで話しきるようリードするのが進行役の仕事です。そのコツは、まず発話者の気持ち（自分が運転できることが誇らしげだった）が自然に表に出てくるよう、分かり易い日本語で語りかけていくことです。

F : えっ? ○○さん三年前に運転免許とったんですか?

免許とってから、生活どんな風になりました?

一番遠くまでドライブしたのはどこまで? 一人で? ご主人といっしょ?

話の展開は、話し手の心の動きに従って自然にまかせましょう。話し合いながら、その人の気持ちに一番ぴたり合う表現を探します。

最後に文型にのせてまとめましょう。

A : 三年前は、免許ないし大変けど…

F : <三年前は>じゃなくて、それまでずっとだから、<三年前までは>でしょ?
やりとりを重ねた結果

A : 三年前までは 免許がなくて不便でしたけど、今は 運転できるので生活が楽
になりました。子どもの送り迎えができるようになったので。

とまとまりました。

A : 主人の送り迎えもするんです。子どもみたい。

というおのろけっぽいつぶやきがひとこと加わりました。

文末を「～になる」「～ようになる」のような変化を表す形（7 課 1 章参照）に整えました。滞り年数の長い人たちは、いろいろな表現を、使えないけれど聞き覚えて知っています。ですから、言いたいことに見合った「形」をその場その場で提供していきましょう。

聞き覚えのレベルであった語彙や文型は、自分の発想と結びついたとき、使える「表現の力」にレベルアップされます。

▶ **訂正のしかた** — 発想——学習者は何が言いたかったか——に、さかのぼる
学習者の日本語には、訂正が必要な場合が多々あります。
その不完全さも、大きく分けると、次のような二種類があります。

- ① 伝えたいことは十分伝わるが、動詞の活用を間違えた、助詞が抜けたというような、部分的な訂正が必要な場合
- ② 何を伝えようとしているか流れそのものが掴めない場合

相手の発想をまず受けとめよう

①と②のどちらの場合でも気をつけなければいけないのは、出てきた表現の正誤にばかり気を取られて、表現の元にある発話者の発想を理解しようという大事な配慮を欠いてしまうことです。「今あなたが言ったことは、こう言ったほうが正確に伝わると思う」と、発想を尊重する姿勢をいつも示したいものです。特に、②の場合、

「ごめん、ちょっとわからなかったんだけど、もう一度言って」と促したり
「あなたの考えは、こういうこと？」と、分りやすく言いかえて、内容を確認しましょう。そのとき必要になるのは、不完全な日本語の背後にある発話者の真意を察知する感性と、それを発話者の力にあった日本語にまとめる力です。

訂正には、みんなの力を借りよう

しかし、それは進行役が一人で引き受ける仕事ではありません。

一人ひとりの発言を大切に受け止めるために、参加者全員の力を活用するのが進行役の仕事です。

例えば、発話者と同国の人がいたら、その人の母語の力を借りるのもいいでしょう。そのとき、助言する側と、される側の人間関係を見極めておくことが求められます。

また、参加している日本人は、発話者にふさわしい表現を探すところで協力することも大切です。

ことばが身につくのは、自分のことばを受け止めようと真剣に向き合ってくれる人に言いたいことが伝わったという体験をしたときです。

セクションB



イラスト版 p. 10

クラスの前に準備すること

【1】 話題を広げ、文型〈～は～けど、～は～〉の働きを更に深く捉えよう

町の様子や、生活習慣の変化、家族のだれその内面と外面^{うちづら そとづら}の違いなどに話題を広げます。

大変身近な話題ですから、自分のこととして話したいことがあるはずです。日常的な語彙の世界を広げながら、「発言合戦」を展開することができます。

四つのイラストを見て、次の三点に注目しましょう。

- ① 話題は何か
- ② どんな側面を取り立てて比べているか
- ③ 話し手は、何が伝えたいのか

クラスでは、イラストから得たイメージを自分で考えて、言葉を選んで表現する時間を十分とってください。

日本人もイラストから得た発想を、自分の言葉で話す準備を忘れずに。

各テーマについて、話題を広げるヒントを提示しました。その日の参加者に合った話題で話を広げて楽しみましょう。

ステップ1 <...は(けど)、...は...>の働きに目が向くような質問を用意する

- ・ 話題は何ですか。 (わたしの生まれたところ)
- ・ いつ頃といつ頃の故郷を比べていますか。 (十年前と今)
- ・ 十年前はどんなでしたか。
(まだ自然が残っていた。家が少なくて、山が見えた・・・)
今は? (ビルが立ち並んで、空気も汚なそう。自然が失われた)

まず、イラストを見て感じたことを自由に話し合ってから、

- ・ <～は～けど、～は～>を使ってまとめましょう。

と促して、文型にのせてまとめてもらいましょう。

その後CDを聞いてリピート。CDは「正解」ではありません。「表現の形」を理解するための一つの例です。

- ・ この人は、どんな気持ちを伝えたいのでしょうか。

ここは、意見の分かれるところです。自由に話し合ってください。

人によって、「昔を懐かしんでいる、開発を苦々しく思っている、発展を喜んでいる」と、解釈はいろいろだと思います。

ステップ2 自分のことで使ってみる

続いて、自分が育った場所について話しましょう。

次は、急速に発展している国の人の発言です。三年ぶりに帰ったふるさとについて、

「十年前は工場がたくさんあったのに、今は半分に減ってさびしくなっていた」と話してく

れた人がいる一方、

「昔は古い家ばかりだったところに、高層ビルがたくさん建っていた」と話す人もいました。そんなときは、

- ・ それでどう思いましたか。

と問いかけてみましょう。心に浮かんでいるであろう感慨に表現を与えるチャンス逃さないでください。

《町の様子の変化》 例えば、話題を商店街・学校・子どもたちの遊びなどに広げて、その変化について話し合しましょう。

進行役がまず、自分自身の感じている地域の変化を「表現の形」にのせて話すことで、みなが発話を誘い出しましょう。

クラスワークの進め方

- 【1】 イラスト1「わたしの生れたところ」を使って、文型の働きを理解しよう
「クラスの前に準備すること」を参考に、**ステップ1. 2** に沿って進めてください。町の様子の変化について、話を広げましょう。

- 【2】 イラスト2～4も、同じようにやってみよう

イラスト2 朝食の今、昔

- ・ 話題は何ですか。
- ・ イラストの、昔の朝食はどんな風ですか。
最近の朝食は？ （買い弁、立ち食い、立ち飲み、さびしいねえ！）
- ・ ねこはご飯もらったんだろうか。ねこのえさは何？
- ・ あなたの小さいときと、今では、朝食のスタイルは変わりましたか。
- ・ どうしてこんな変化が起こったのでしょうか。
- ・ この人は、どんな気持ちで言っているのでしょうか。
（昔が懐かしい？ 女性が家事から解放された？ あなたはどっちを望んでいる？）

自分の家は、「昔も今も朝ごはんだけは家族いっしょに食べるようにして

るし、これからそれは守る」と断言した女性（外国人の学習者）がいました。
朝食のスタイルにはお国柄があります。たくさん話してもらいましょう。
最後に、CDを聞いてリピート。文の形に注目することを忘れずに。

《家族の構成、生活環境の変化など》 [大家族か核家族か。女性の社会進出による家事の役割の変化。24時間営業のコンビニの出現] などに話題を広げましょう。状況は国によってずいぶん違うと思います。

イラスト3 洗濯の今、昔

- ・ 洗濯機の前のお母さん、子どもに囲まれ、何と言っているのでしょうか。
- ・ それを見たお婆さんは、今の洗濯について何と言っていると思いますか。
- ・ お婆さんは、自分の若いころの洗濯を思い出しています。
昔の洗濯の手順はどんなだと言っていますか。
- ・ お婆さんは、どんな気持ちで言っているのでしょうか。

若いお母さんを励ましているのでしょうか。昔にくらべたら今は楽だよと言っているのか。自分の国の洗濯の変化について話してもらいましょう。

《機器の変化》 冷暖房、携帯、炊飯器・電子レンジなどの調理器具・コンピュータなどのない生活はどんなだったでしょう。

イラスト4 僕の姉さん

- ・ 家にいるときの姉さんと、出かけるときの姉さんはどう違いますか。
自由に話してみましょう。
- ・ 僕はだれに、どんな気持ちで言ってるのでしょうか。
(きれいな姉さんをちょっと謙遜した？ 姉さんの真実の姿を暴露？)

《内面と外面》 あなたは、内面（うちづら）と外面（そとづら）が違う方ですか。
あなたの家族はどうですか。友だちは？ 先生は？

- ・ 内面と外面が大きく違う人のこと、どう思いますか。

2 章 一杯やるのが 楽しみです

➡➡➡ 日常のどんなところで使っているだろう

<～の>

カラオケはよく行くけど、100 点出すのはむずかしいよ。

(趣味の話・会話)

ラーメンはどんぶりの底のコーンをすくって食べるのがいいんです。

(TV・こだわりのラーメンの食べ方)

「太く短く生きるのと 細く長く生きるのと どっちがいいですか。」

「わたしは 太く長く生きるのがいいです。」

(クラスでの会話)

新聞を隅々まで読むのが、毎朝の楽しみです。

(新聞・広告欄)

浸透していくのを肌で感じるんですね。オシャレをするのが楽しみ
になり、人に会うのもすごく楽しくて。

(「化粧品」の広告)

◇◇◇ 「の」を使って話しましょう

文 法： 文を名詞化する助詞「の」

表現の形： Aのは よくないです

Bのが 楽しみです

Cのを 忘れました

D { a :のと.....のと どっちのほうがいいですか
b :ほうが いいです

表現意図： 文を名詞化することで、表現を詳細かつ豊かにする

✌ これだけは押さえておこう—— 文を名詞化する助詞「の」

「たばこは、体によくない」という文は、体によくない「こと」や「もの」たとえば「食べ過ぎ・夜ふかし・運動不足・たばこ・偏食・・・」の中から、「たばこ」を「は」で取り立てて、「によくない」と注意を促しています。

たばこの健康への影響に関して、もう少し具体的な内容、たとえば、

「たばこを吸いすぎる」

「たばこを日に20本以上吸う」

それが体によくないと言いたいときは、＜たばこを吸いすぎる+の＞という形にすれば、「たばこを吸いすぎるのは、体によくない」と言うことができます。

「の」を使うと、名詞ひとつでは言い切れないことを、より具体的に、詳細に表現することができます。

★ 動詞文と「の」の接続

イラスト版 p. 12 を見てください。イラストAとDを例にして、動詞文と助詞「の」の接続の仕方が書いてあります。

Aの例が示すように、名詞化するとき、「の」の前の動詞文は肯定文も否定文も普通形（言い切りの形）になります。

Dの比較文では、次のような誤用が多いので注意しましょう。

- { A: 作ると 食べると どっちのほうが好きですか。
 B: 食べるのほうが好きです。

助詞「と」の前では、「作るのと食べるのと・・・」と、動詞文を「の」で名詞化する必要があります。たとえば、「和食と洋食と・・・」というのと同じです。

「ほう」は「もの・こと・わけ・はず」などと同種類の名詞です。「食べるもの」「食べること」のように、動詞文は後ろに来る名詞をそのまま修飾します。

そこで、「食べるのほう」ではなく、「食べるほう」となります。

クラスの前に準備すること

【1】 A <.....のは 体によくない> を使って、「の」の働きを捉えよう

お母さんは、家族三人の健康を心配しています。イラストを見ると、一人ひとりの日頃の行動の詳細な部分まで気にしていることが分ります。お母さんが心配している三人の問題を観察しましょう。

次の二点に注目してください。

- ① 三人には、どんな生活習慣があるか
- ② お母さんは、どう声をかけているか

ステップ1 「の」の働きに目が向くような質問を用意する

イラストA

＜ おばあちゃんの場合 ＞

- ① ・ お母さんが、日頃気にしているのはどんな習慣ですか。

おばあちゃんは

何をしている？（居眠りをしている・体を動かさない・じっとしている…）

どれくらいの時間？（後ろの時計に注目すると、朝から晩まで一日中…）

どこで？（こたつで…）

イラストから得たイメージを自由に表現してもらい、出てきた文を「ます形」で板書しておきましょう。

例： 一日中、こたつでじっとしています。

朝から晩まで、こたつで居眠りしています。

一日中、体を動かしません。

- ② ・ おばあちゃんに、それは、体によくないと声をかけましょう。

板書した文の文末を普通形に変えて「の」をつけます。そうすると、文が名詞化されて、「は」で取り立てることができることを、イラスト版 p. 12 の解説も参考にして理解してもらいましょう。

例： ＜一日中、こたつでじっとしている+の＞ は 体によくないわ。

＜一日中、体を動かさない+の＞ は 体によくないですよ。

文型＜～のは 体によくない＞にのせて文ができれば、おばあちゃんに声をかける気持ちで言ってもらいます。

その後、CDを聞いてリピート。

イラストB

＜ ヘビースモーカーのお父さんの場合 ＞

- ① ・ お父さんは、たばこをどれぐらい吸うと思いますか。
 (ヒント: 灰皿・吸殻・山盛りいっぱい etc.)
- ・ お母さんが、お父さんの「体によくない」と思うのは、どんな点ですか。
 (たくさん吸う・吸いすぎる・10 本以上吸う・人がいるところで吸うなど
 何でもいいですね)
- ・ お母さんは、「たばこをやめなさい」と言っていますか。

- ② ・ お父さんに、体によくないと声をかけましょう。
 自分の作った文で、お父さんに言いましょう。その後、CD を聞いてリピー
 ート。

イラスト C

< トイレをがまんしている子の場合 >

- ・ この子が、授業中にトイレに行きたくするのはなぜでしょうか。
- ・ お母さんは何が「体によくない」と心配していますか。 (トイレをがまんする)
- ・ この子に、注意してください。

「どうして休み時間に行っておかないの！」のような注意が出てきてもい
 いですね。

- ・ 学校では、授業中トイレに行きたくなくなったとき、何と言ったらいいのでしょうか。
- その後、CD を聞いてリピート。

ステップ2 自分のことで話す

あなたが「体によくない」と思うのは、どんなことですか。

「体にいい」と思っていることも話してください。

「体によくない・いい」の「体」のところを「歯・肌・目・心臓」などに置
 き変えると、ぐっと話が広がります。

クラスワークの進め方

【1】 A を使って、「の」の働きを理解しよう

「クラスの前に準備すること」を参考に、**ステップ1. 2** に沿って進めてくだ
 さい。

- 【2】 B <～のが 楽しみです>・C <～のを 忘れました>も、Aにならって
話し合い、文を完成しよう

Bのが 楽しみです

- ・ この夫婦は、仲良く何をしていますか。
ご主人は、日頃 何が楽しみだと言っているのでしょうか。

- ・ 右のイラストの女性は何をしていますか。
何が楽しみだと言っていますか。

イラストから得たイメージを自由に表現し、文型にのせて言ってみましょう。
その後、CDを聞いてリピート。

▶ 「楽しい」と「楽しみ」はどう違う？

現場では、「楽しいです」と言う人がきつと出てきて混乱します。

日本人は、無意識に使っていますから、どう違うと問われるとたじろぎ
ます。

楽しい・楽しみ 悲しい・悲しみ 苦しい・苦しみ

痛い・痛み あまい・あまみ くさい・くさみ 弱い・弱み

と並べてみると、形容詞と名詞という【形】の違いだけでなく、意味の違いも
何となく見えてきます。ついでに、「楽しい・楽しさ・楽しみ」のように、間

に「さ」の【形】も入れてみると、直感的、情感的であったものが、次第に
状態性を帯びてくるのがわかります。と言って、使い方がわかるわけではあり
ません。使われている状況を示して、次第に感じ取ってもらうしかありません。

以下の下線部に「楽しい」か「楽しみ」を入れてください。形容詞には過去
形があることをお忘れなく。

- ① 陶芸教室で花瓶を作りました。

粘土をこねて作るのは、ストレス解消になって.....です。

焼きあがるのが.....です。

- ② 給食の時間はみんなとおしゃべりしながら食べるので.....です。

今日の献立はカレーライス。朝から給食が.....です。

- ③ 種を蒔きました。庭仕事は、大変だけど.....です。

どんな花が咲くか今から.....です。

「楽しいです」が、そのときの気持ちを表すのに対し、「楽しみです」には、話し手の期待感があるのが感じられます。

日本人も、日頃、何が楽しみか話しましょう。文型に乗せて自分のことを話す準備を忘れないでください。

「毎日大変だけど、子どもの成長を見るのが楽しみです」

「仕事の帰りにコーヒーを一杯飲むのが楽しみです」

韓流ドラマを見るのは、各国みんなの楽しみのようでした。

▶ 文を名詞化する「の」と「こと」はどう違う？

「～するのが楽しみです」という形を使ってもらおうとして、「あなたの日頃の楽しみは何ですか」と問いかけると、「一杯やることです」という答が返ってきました。「こと」と「の」の使い方の違いを捉えてもらうのはけっこう面倒な作業です。

学習者は選択に迷って、「一杯やるのことです」など、いろいろな言い方をします。やがて『「の」と「こと」は、どう違いますか』という質問につながってくるのです。

違いをわかってもらうためには、まず自分が「の」と「こと」をどう使いわけているか捉えておく必要があります。

それには、どんなとき、どんな目的で、「の」と「こと」を使い分けたか、その場面を思い出すしかありません。

「の」と「こと」、使い分けの例

A： ○○さんの日頃の楽しみは何ですか。

B： さあねえ。食べること、飲むこと、いろいろあるけど一番は本を読むことかな。

休みの日に、コーヒーでも飲みながらゆっくり本を読むのが、何よりの楽しみなんです。 ××さんは？

A： 私は、体を動かすことですね。週一回近くのスポーツクラブで、筋トレしたり、泳いだりするのが、好きなんです。

「の」と「こと」の違いを理解してもらう作業

人は、日常、数えられないほどいろいろなことをしていますが、その中で「飲む」「踊る」「本を読む」のような楽しみに関わる行動を、学習者といっしょにあげてみてください。

学習者から「食べる」「寝る」「スポーツをする」「買い物に行く」「旅行をす

る」「孫に 会う」「ケーキを作る」など、たくさんの行動が出てくるのが予想できます。

そこで、「あなたの楽しみは、その中の何ですか」と聞いてみましょう。

「～することです」が期待される形ですね。

「私の楽しみは、＜本を読む＞ことです」

と、進行役が、自分の楽しみを例として提出しましょう。それから、全員にこの文型で自分の楽しみは何か言ってもらいます。

「本を読むことです」は、捉え方が大きくて漠然としています。もうちょっと具体的に、自分の楽しみ方について話したい。たとえば＜休みの日に、コーヒーでも飲みながらゆっくり本を読む＞。それが私の楽しみだと伝えたいとき

「＜休みの日に、コーヒーでも飲みながらゆっくり本を読む＞のが、何より楽しみなんです」

と、詳細を伝える文を名詞化するのが「の」の働きであることを理解してもらわなければなりません。

実践報告

知り合いのYさんから、メールで実践報告が届きました。内容は以下のとおりです。

Yさんからの報告

「こと」と「の」をどう使い分けるかについて質問されました。

質問してきたのは、日本語をゼロから学習し始めて、勉強したこと以外は多くを知らない、日本語は大学の教室内だけの、スペイン人の学生です。

クラスが終わった後、質問してきました。

彼とのやりとりを、覚えている限り詳細に再現してみます。

学生（N）：先生（Y）

N： 先生。（クラスの終わりに声をかけてきました）

Y： 何ですか。

N： 質問があります。

Y： はいどうぞ。何でしょう。

N： （自分のノートにメモ書きしながら）

「こと」と「の」、どう違いますか。

Y： ああ、それですか。わかりました。（とは言ったものの、内心すごくビビっていました）

Y : 私たちが毎日するアクティビティーって、いろいろあるよね。たとえば、「寝る」とか「食べる」とか「本を読む」とか・・・

「アクティビティー」と英語を使っているのは、ちょっとズルイのですが、相手が一人で、英語がわかる学生だったので使ってみました。英語が使えない、あるいは、英語が共通語にならない複数が相手なら、「人が生活をするとき、いろいろなことをするでしょう。たとえばどんなことがある？」のように聞いていけばいいと思います。

N : はい。

Y : 他に何がある？

N : 「酒を飲む」「水泳をする」「作文を書く」・・・

Y : そうだね。そこで、たとえば、「趣味は何ですか」と聞かれたとき、たくさんあるアクティビティーの中から一つ、大きく選んで言う時に「こと」を使うんです。
たとえば、私だったら、「本を読むことです」と答える。

じゃあ質問するね。

Nさん、趣味はなんですか。

N : 泳ぐ・・・んー、んー・・・、こと・・・

Y : です。

N : 泳ぐことです。

Y : そう。いろいろなアクティビティーから、今、一つ選んだんだよね。

「水泳です」とは言えるけど、「泳ぐです」じゃまずい。そこで、「泳ぐことです」と「こと」をつけて、動詞を名詞にしましょう。

N : はい。

Y : いろいろなアクティビティーがあって、その中から、趣味として、「泳ぐこと」を大きくひとつ選んだ。そのとき使うのが「こと」。

N : はい、わかりました。 (と言いながら、あきらかに、不満気)

Y : 私の趣味は、「本を読むことだ」と言ったけど、どんな本が好きか、どんなとき読むのかももっと詳しく伝えたいとき、「＜休みの日、寝転がって、軽い本を読む＞のが好きなんです」と、詳しく伝える文を名詞化するのが「の」なんです。

じゃあ、Nさん、趣味は「泳ぐことです」と言ったけど、もう少し詳しく話してくれる？
「どこで」とか「だれと」とか「いつ」とか。

N : ああ、わかりましたっ！！ <大学の体育館で、週2回泳ぐ>のが好きです。

Y : いいね。じゃあもう一度行くよ。

Nさん、あなたの趣味は何ですか。

N: 泳ぐことです。

Y: ああ、そうですか。日本でも泳ぐんですか。もう少し、そこ詳しく話してくれる？

N: ええ、あそこに見える大学の体育館で、週 2 回泳ぐのが好きです。

Y: 「好きだ」という気持ちをもっと強く伝えたいと思うときは？

N: 「～んです」

Y: そうだね。じゃあもう一度。Nさんの趣味は何ですか。

N: 泳ぐことです。あそこの体育館で週に 2 回泳ぐのが好きなんです。

Yさんの振り返り

このやりとりの後、N君はガッツポーズと万歳をして「わかった」と言い、しきりにとなりの学生に説明していました。

「の」が、「こと」より詳細で、具体的な状況を表現する文の名詞化を担っているという感覚はつかめたようです。

まとめてみましょう

Yさんは、趣味について話し合う『状況』を設定しています。そして、自分の趣味を語りながら、Nさんにも同じ文型で自分の趣味を語るよう促しています。大切なのは、教えながら、同時に、お互いの趣味について情報交換をしている点です。練習が、自分のことを伝えるということば本来の目的に適っているのです。

途中、『もう一度行くよ』と言って、繰り返し、自分の発想を文型にのせて表現させています。こうすることで、言いたいことと、それを表現する文型が、しっかりと結び付きます。

知識として理解したのではなく、自分のことを伝えるために使った文法は使える道具となって身につくのです。

C のを 忘れた

三人は、何をするのを忘れたのでしょうか。

- ・ お母さんは？ メモは持って行かなかったのかなあ？
- ・ お父さんは？ よくあることですね。
- ・ ねこは何て言っているのかな？

ねこは、自分が忘れたのではなくて発見者です。学習者がどう文末を処理するか楽しみです。自由に言ってもらいましょう。

CDを聞いてリピート。

最後に自分が何かするのを忘れた経験を話しましょう。みんな身に覚えのあることなので、思いがけないこと、あぶないことなど、忘れたことはたくさん出てきます。

「～するのを～」の助詞「を」は、会話では省くことが多いです。

- D $\left\{ \begin{array}{l} \text{a : } \dots\dots \text{ のと、} \dots\dots \text{ のと } \text{どっちのほうがいいですか} \\ \text{b : } \dots\dots\dots\dots\dots \text{ ほうがいいです} \end{array} \right.$

□ の後ろに、比較する文が書いてありますから、それを使って、ペア・ワークをしましょう。

- ・ どちらのほうがいいか、それぞれ、自分のことで答えましょう。

なぜ、そうなのか、理由も言ってください。

なお、どちらのほうがいいか決めかねるときは、「どちらかと言えば」というような前置きの表現を言うように練習しておきましょう。

会話の内容のまとめ

	話 題	文型・表現など	語彙・その他
1	お金の使い方の傾向	～のと～のと どっちのほう が・・・ ・するのは楽しいよ	それぞれ、どっち派？ どうして？ ・ そつと・通帳
2	居酒屋の家族連れに 賛否両論	～のを どう思いますか ・ いけませんか 気持ちは？ ・ いや いけないとは言いませんがね、でも・・・ 気持ちは？ ・ ああいう場所	それぞれの意見は？ → 私はわるいとは思いませんけど・・・ → でも、いいとも言えないんじゃないかなあ・・・ → 何か問題を感じている

3	金さんのお産	～するのを 楽しみにしています	<ul style="list-style-type: none"> ・ 孫の顔を見る ・ おめでた ・ 予定日
4	野菜作り	～するのが 楽しみです	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人にあげる ・ 畑・野菜・採れる・味 みかけ・無農薬
5	黄さんの夢	～するのが 夢なんです ・ 仕事しているんですか ・ 今は～だけど、将来～	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の店を持つ → 現在、仕事についている かどうかを聞いている・状態を表す<～ている>

注 意

CD を一文ずつリピートしましょう。文の形やあいづちに、どんな気持ちが含まれているかを話し合っ、人物の気持ちを感じとりましょう。

会話には、それぞれ質問がついています。自分のこと、自分の考えをしっかりと発言してもらいましょう。日本人も発言することを忘れずに。

➡➡➡ もう一度、日常の生活に戻ってみよう！

1. 次のような質問を用意して、どっちのほうが好きか、またはいいか話し合しましょう。お互いの理解が進んで楽しめます。

- | | |
|-------------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> ものを あげます | <input type="checkbox"/> もらいます |
| <input type="checkbox"/> カラオケで 歌います | <input type="checkbox"/> 聞きます |
| <input type="checkbox"/> 人の話を 聞きます | <input type="checkbox"/> しゃべります |
| <input type="checkbox"/> 太く短く 生きます | <input type="checkbox"/> 細く長く 生きます |

ちなみに、「私は 太く長く生きるのが いいです」と回答した人がいます。回答者は質問の二者択一にはない、新しい選択肢を立てたわけですから、「～のほうがいい」ではなく「～のがいい」が正解です。

2. 日頃疑問に思ったり、関心を持っていることを <～のをどう思いますか>の形で質問して、意見を交わしましょう。

例： アニメで日本語を勉強する

優先席に若者が座って、携帯に夢中になっている

長生きする

「**が増える・減るのをどう思いますか」の、**部分にフレッシュな話題を入れて話し合いましょう。

3 章 食べ終わったら かたづけて

➡➡➡ 日常のどんなところで使っているだろう

<～たら、(～て)>

これ終わったら、レントゲン室に行ってください。

(病院の健康診断で)

生活習慣が気になりだしたら、食生活にマグロやイワシといった
青魚を積極的に加えてください。

(サプリメントの広告)

「突き当たったら、右に曲がってね。花屋が見えたら、すぐだからね」

「分ってるってば……。着いたら、電話するよ」

(会話・家庭で)

もし宝くじが当たったら、どうする？

(会話・家庭で)

もし「本能寺の変」で信長が死ななかったら？

(TV・歴史仮想ミステリースペシャル)

◇◇◇ 「～たら」を使って話しましょう

文 法： ～たら

表現の形： I A ～たら (～て)

I B ～たら (～する)

II (もし) ～たら (～する)

表現意図： I A ある動作が完了した時点で相手の人にしてほしいこと
を指示したり依頼したりする

I B 相手に求められたことを実行するタイミングを言う

II ある状況を仮定して、そのとき何をするか言う

✌ これだけは押さえておこう——「～たら」の働き

I A 相手は今、何かしているところです。話し手は、それが終わった時点でしてほしいことを、相手に頼んでいます。

二人の関係によって、それは、依頼であったり、指示であったり、ときに命令であったりします。文末の形も、話し手の意図によって、＜～してください・～してね・～してごらん etc.＞と変化します。

I B 話し手は、相手が求めていることを実行するタイミングを考えています。何かが一区切りついた時点で要求にできると伝えます。

II ある事態を仮定して、それが起こったとき何をするかを語ろうとしています。これは、「(もし) 雨が降ったら行かない」「(もし) ○○さんが来たらこれを渡してください」というような、何かが起こったと仮定して、そのときにどうするかを前もって考える、ごく日常的な表現の延長線上にあります。

★ 形の作り方

イラスト版 p. 16 を見てください。動詞、形容詞(い・な)、及び名詞を「たら」形にするときの作り方が示してあります。

セクション I A



イラスト版 p. 14

クラスの前に準備すること

【1】 1 (例) のイラストを使って、＜～たら、(～て)＞の働きを捉えよう

お母さんは子どもに、後始末のしつけをしようとしているようです。

イラストは「かたづけ」シリーズです。次の三点に注目してください。

- ① 子どもはいま、何をしているか
- ② お母さんの指さす先には何があるか
- ③ お母さんは子どもに、どんな時点で、何をするように言っているか

以下は、上の三点について、各イラストの要点をまとめたものです。
話し合うときの参考にしてください。

	お母さんの指示と語彙	注目する点
1	<p>食べ終わったら、かたづけて</p> <p>・ ～を かたづける</p>	<p>① 坊やは今？ (食事中)</p> <p>② お母さんの指さす先は？ (流し)</p> <p>③ 食べ終わった時点</p> <p>テーブルの上をきれいにする</p>
2	<p>使ったら、また元の場所にしまっ てね</p> <p>・ 元の場所</p> <p>・ ～に しまっ</p> <p>・ 終助詞「～ね」</p>	<p>① 坊やは今？ (ハサミで工作中)</p> <p>② お母さんの指さす先は？ (ハサミを出した所・元の場所)</p> <p>③ ハサミを使い終わった時点</p> <p>引き出しに入れて閉める (～に しまっ)</p>
3	<p>読み終わったら、本棚に戻してね</p> <p>・ ～に戻す</p>	<p>① 坊やは今？ (拾い読みの最中か)</p> <p>② お母さんの指さす先は？ (本を出した所)</p> <p>③ 読み終わった時点</p> <p>元の場所に元通りに置く (～に 戻す)</p>
4	<p>遊んだら、かたづけてね(たくさんおも ちゃを出しちゃって…)</p> <p>・ ～を かたづける</p> <p>「かたづける」の広義は、目障りなものを 視界からはずすこと</p>	<p>① 坊やは今？ (お城を作っている?)</p> <p>② お母さんの指さす先は (おもちゃ箱)</p> <p>③ 遊び終わった時点</p> <p>おもちゃを床に出しておかない (～を かたづける)</p> <p>・ 娘をかたづける? じゃま者をかたづける?</p>
5	<p>脱いだら、かごに入れて! (脱いだもの を放り出して風呂場にとびこむの?)</p> <p>・ かご</p> <p>・ ～に 入れる</p>	<p>① 坊やは今? (服を脱いでいる)</p> <p>② お母さんの指さす先は? (脱衣かご)</p> <p>③ 脱ぎ終わった時点</p> <p>脱いだものを放りだすのはだめ! (～に 入れる)</p>

ステップ1 <～たら、(～て)>の働きに目が向くような質問を用意する

- ・ この子は、いま、何をしている? (一人で食事中)
- ・ お母さんが、指でさしているのはどこ? (台所の流し)
- ・ お母さんは、いつ、何をするように言っていますか。

自由に意見を言ってもらってから、CDを聞きましょう。

- ・ お母さんは、食べ終わったときに、すぐ自分のお皿をかたづけてほしいと思っています。何と言っていましたか。

リピートしましょう。

- ・ この子は、食後、いつもどうしていると思いますか。お母さんはどんな気持ちで言っているのでしょうか。 (自分のものは自分でかたづけようね)

自由に話し合っ、＜～たら(～て)＞の意図を感じとってもらいましょう。

クラスワークの進め方

【1】 イラスト1(例)を使って、＜～たら～て＞の働きを理解しよう

まず p. 14 のイラスト全体をよく見て、お母さんは、坊やに何を言っているのか話し合ひましょう。しつけととるか、ガミガミお母さんととるか、いろいろな意見を出してもらいましょう。

その後、「クラスの前に準備すること」を参考に、**ステップ 1** に沿って進めてください。

【2】 イラスト2～5をやってみよう

本冊子 p. 51 のまとめと p. 50 の注目すべき三点を中心に話し合ひ、自由にせりふを入れていきましょう。

十分話し合ってからCDを聞いてリピートします。CDのせりふは一つの例であって、これだけが正解ではありません。

▶ 語彙の扱いを大切に

1. ＜ かたづける・しまう・戻す ＞ の違いは何？

CDを聞くと、「元の場所にしまう」「本棚に戻す」「かたづける」など意味の似た語彙が出てきます。微妙な違いをわかってもらうためにはそれぞれの語彙が必要とされる状況を作って、実際に使い分けてみるのがいいでしょう。

たとえば、

- ① 机の上に、使った湯のみや紙皿を散らかしておく
- ② 椅子をひとつ、所定の場所からはずしておく
- ③ 机の上にお金を出しておく

①・②・③ の物をどうしたらいいか、自由に指示を出してもらいましょう。

使った湯のみを「しまってください」はおかしい。「かたづける」じゃないかな。洗った湯のみは食器棚か所定の場所に「しまう」か「戻す」がいい。でも「かたづける」も使える。

「かたづける」は使える範囲が広そうだ。要するに、目障りなものを目の前から外すこと。

椅子は所定の場所に「戻してください」

大切なお金は「さいふにしまったほうがいいですよ」つまり、あるべき場所にしっかり納めることだ。大切なものは金庫にしまうんだ。

使用する場面と表現を結びつける作業をするうちに、語彙のもつ「意味の領域」が見えてきます。

例文は、場面・状況が目に浮かぶものであること

クラスでことばの意味の違いを聞かれたらどうしますか。

まず、自分はどんな時に使っているか思い出しましょう。

「こんなとき、だれそれに、こういうことを、こういう気持ちといっしょに伝えたいとき、これを使った」と場面が目に浮かぶように提出するのが例文です。

説明したり、電子辞書をひいて急いで答を出そうとしたりせずに、具体的な使い方の例をたくさん出し合ひましょう。一人でたくさん言えなくてもグループ全員が自分のことを言えば、かなりの具体例が出るはずですよ。具体例は抽象的な説明より、学習者にはずっと役に立ちます。なるほどと思ったり共感したり、とても楽しい時間になるはずですよ。

新しい語彙や文型を扱うときには、自分が実際にそれを使ったり聞いたりした場面を思い出し、声に出して言うてみるのが、日頃の準備として何より大切なことです。

2. 終助詞「ね・よ・よね」をどう使いわけているか

「食べ終わったら、かたづけて」の「～て」は、後ろに「ください」がつけばいいねいな依頼です。

「～て」だけで言っても、音調によって、指示になったり、依頼になったり、

ガミガミお母さんの命令に聞こえたりもします。

「～て」の後ろに、終助詞「ね・よ・よね」などがつくと、話し手の気持がはっきり付け加えられます。2, 3, 4番には「ね」がついていますネ。

- ・ 「ね」と「よ」、どう違いますか。

これは、学習者からよく出る質問です。この問いに答えるためには、音調で意味を聞き分けてもらうしかありません。

「ね」のやさしく念をおす声。

「よ」の必ずやれよと要求する押し付け気味の声。

「かたづけてねㇿ」「かたづけてよㇿ」と、いずれも文末が上がります。

「かたづけてよㇿ」と文末を下げると、今すぐやれと言う意味になりますから、＜～たら～て＞の形にはしっくりいきません。自分で声を出して言ってみると意味の違いがすぐわかりますから、やってみてください。

「食べ終わったら、かたづけてよㇿ」と言っておいたのに、片づけないで逃げた子の手をひっぱってきて言うのが、「ちゃんとかたづけてよㇿ」です。

場面と声を使った実演で、終助詞の働きを理解してもらうのに絶好のイラスト群です。

「よねㇿ」については例文を作って声に出してみてください。できますヨネㇿ

➡➡➡ もう一度、日常の生活に戻ってみよう！

先に述べたように＜～たら（～て）＞という形は、日常、いたるところに出てきます。実際どんなとき使っているか、学習者がどんなとき使う可能性があるか、考えておきましょう。

たとえば、次のような場合、どう言いますか。_____の部分に書き込んでください。

病院で 例： レントゲンを（撮る）撮ったら、（戻る）戻ってきてください。

- ① 痛みが（止まる）____、薬を（止める）_____。
- ② この検査が（終る）____、（着替える）_____。
- ③ 薬が（なくなる）____、また（来る）_____。

学校で ① 答が（わかる）____、手を（あげる）_____。

- ② 全員（集まる）____、（呼びに来る）_____。

- ③ 給食を全部（食べ終る）.....、外で（遊ぶ）.....。

- 道 順 ① 駅ですか。ここをまっすぐ行って、大きい道路に（出る）.....、
左に（曲がる）.....。
- ② いま、どこですか。駅に（着く）.....、すぐ（連絡する）.....。

- 料 理 ① 魚を焼きましょう。
表に焼き色が（つく）.....、（裏返す）.....。
- ② にんにくとねぎ、しょうがをいためて、香りが（立つ）.....、
ひき肉を（入れる）.....。
- ③ おそばは、（茹で上がる）.....、すぐ冷水に（取る）.....。

ほかに、どんな状況が考えられますか。みんなでアイディアを出し合いましよう。

セクション I B



イラスト版 p. 15

クラスの前に準備すること

【1】 イラスト1〈例〉を使って、〈～たら、（～します）〉の働きを捉えよう

イラストを見ると、相手からの要求や提案に対して、「今ではなくある時点でする」と伝えるために、〈～たら、（します）〉という形を使っていることがわかります。

「やりとり」の、次の三点に注目しましょう。

- ① だれが、だれにどんな要求や提案をしているか
- ② すぐ応じられない理由は何か
- ③ どのタイミングで、実行すると言っているか

各イラストについて、上の三点に沿って話し合いを進めます。
以下に②③の要点を書いておきます。話し合うときの参考にしてください。

①の提案は、吹き出しの中に書いてあります。

	表現の形・語彙など	理由・タイミングは？
1	～が終わったら～	② いま、クライマックスだよ！ ③ 番組が終わったとき
2	～になったらね ・春休み+になる → 春休みになる (イラスト版 p. 19 参照)	② まだ学期の途中でしょ ③ 学校が一区切りしたとき
3	～になったらね ・元気(な)+になる → 元気になる (イラスト版 p. 19 参照)	② まだ熱があつて起きられないでしょ ③ 十分、回復したとき
4	～が 終わったらね ・窓ふき → 窓をふくこと 布団干し 庭そうじ 雑巾がけ あとかたづけ 皿洗い etc.	② まだ仕事の途中でだよ ③ 掃除の切りがいいとき

ステップ1**<～たら(します)>の働きに目が向くような質問を用意する**

- ・ お母さんは、男の子に何と言っていますか。 (買い物に行ってきた)
- ・ 男の子は、何を見ているのでしょうか。 (追跡劇か・・・)
お母さんの方を振り向きもしないのはなぜ？ (手に汗にぎる
クライマックスなんだろう)
- ・ 男の子は買いものに行くようですが、すぐではありません。
「ちょっと待って！もうすぐ終るから・・・」という気持ちを、お母さんにどう
言っていますか。 (終わったら行く)

いろいろ意見が出てから、CDを聞き、せりふを読みましょう。「今すぐはだめだけど、区切りがついた時点で実行する」と言っていることを感じてもらいましょう。

▶ 「～たら」と「～てから」はどう違う？

I A、I Bの「～たら」は、順次に現れる二つの行動をつなぐ働きをしています。その点順序を表す形「～てから」と通じるところがあります。特にI Bの場合、「この番組が終ってから行く」とも言えるために、「どう違うの？」という質問が出たり、誤用につながったりします。

「～てから」は、視点が「順序」にあって、二つの行動のどちらが先かを主張したり説明したりするために使います。(8 課 2 章参照)

「～たら」は、今していることが完了した時点で「する」と言っています。

I B は「～てから」と「～たら」の両方の形が使えます。しかし、二つの形の性質上、伝わるのが微妙に異なります。

- ① 「この番組が終わったら行く」 (ちょっと待って)
「この番組が終わってから行く」 (終わるまで待ってよ)
- ② 「春休みになったらね」 (休みになるまで待とうね)
「春休みになってからね」 (今まだ学期中でしょう)
- ③ 「元気になったらね」 (早く元気になろうね)
「元気になってからね」 (もうちょっとがまんしなさい)
- ④ 「窓拭きが終わったらね」 (すぐ終わる、ちょっと待って)
「窓拭きが終わってからね」 (まだ休む時間じゃないよ)

上の例が示すように、「～てから」には「あなたはそう言うけど、私はこうする／こう思う」という主張が感じられます。主張の感じがない分、「たら」の方が穏やかに響きます。

I A の状況は、行動の順序が決っているので、「～てから」を使うと不自然になります。お母さんにとって大事なのは、「食事とかたづけ、どっちが先か」ではなく、食後に「お皿をかたづける」ことです。

II も、「～てから」を使うと、意味不明になります。

- ① 彼に会ったら、よろしく伝えてください。
彼に会ってから、よろしく伝えてください。 (会う前にどうやって言うの?)
- ② 切ったら、血が出るよ。
切ってから、血が出るよ。 (そりゃ、切るまでは出ないよな)

クラシックの進め方

- 【1】 イラスト 1 (例) を使って、〈～たら、(～します)〉の働きを理解しよう
「クラスの前に準備すること」を参考に、**ステップ 1** に沿って進めてください。

ここで、「<終わってから>ではいけませんか」という質問がよく出ます。このセクションでは両方の形が使えるからです。

「～てから」のほうが、今はそれをする時じゃないと牽制するニュアンスがあることを感じとってもらいましょう。

【2】 イラスト2～4をやってみよう

本冊子 p. 56 のまとめと、p. 55 の注目すべき三点を中心に、十分話し合っ
て、下線部を完成させましょう。その上で、CDを聞いてください。

セクションⅡ

イラスト版 p. 15

想像してみましょう

【1】 <（もし）……たら、（～します）>を使って、想像してみよう

イラストの二人は、ありそうもないことが実現したと想定して、話を切り出しています。仮定法ですね。あることがまるで実現したかのように<（もし）～たら>と過去形が出てきます。

イラスト1 もし、百万円あったら

この女性は、百万円あると仮定して

- ・ もし、百万円あったら、何をしますか

と語りかけています。自分なら何をするか、話し合ってください。

五百万円、一千万円と額を上げて、話してみましょう。

イラスト2 もし、タイムマシンに乗れたら

次は、タイムマシンです。

イラストについて、これは何か。いったい何を聞いているのか話し合しましょう。その上で、「もしタイムマシンに乗れたら、自分はどちらへ行きたいか、それはなぜか」一人ずつ話してもらいましょう。日本人も用意をお忘れなく。

「もし映画俳優だったら、誰と共演したいですか」「1年間休みがとれたら、何をしますか」等、楽しく話を広げましょう

会話の内容のまとめ

	話 題	目標の文法・表現など	その他
1	お父さんに苦言 <u>他に</u> 親子、夫婦間のこういうやりとりには他にどんなものがあるだろう	～たら、～て ・ ～を たたむ ・ ～てよね	お父さんはいつも、どうしているのだろう ・ 娘はお父さんをどう見てる？ (もう、いつもこうなんだから)
2	道を聞く	～たら、～てください ・ ～は この辺ですか ・ まっすぐ行く ・ ～に突き当たる	桜中学校への行き方は？ ・ 道の聞き方は？ ・ 突き当たった時点で、どう行くか？
3	もし、さいふが落ちていたら	(もし)～が～ていたら、どうしますか (名詞) だったら、どうします？ (大金・あなた・自分) ・ ～に届ける ・ ～を確かめる (金額)	特別な事態を仮定して、どう対処するか聞く ・ 参加者全員、自分だったらどうするか言いましょう
4	口うるさいお母さん <u>他に</u> ・ 自分が国を出るとき、誰が何と言ったか思いだしてみよう	～たら～て ～するのを 忘れないで	お母さんは、心配して、いつどうしろと言っている？ ・ 着いた時点で、電話 先方に会った時点で、挨拶・おみやげ
5	新入社員と先輩	こちら～さん。こちら～さん ～たら～てください (何かわからないことがあったら、なんでも聞いてください)	引き合わせる (初対面の挨拶) ・ 一種の社交辞令か？ だれかに、言われたことがある？ だれかに言ったことは？

補 足

CDを繰り返していねいに聞いて、文の構造と文型の持つ意味、特に気持ちの受け渡しに注目しましょう。

イラストには質問がついています。それについて、話し合ってください。

会話1と4には、**他に**として、話を広げるヒントを書きましたので自分のことを語ってもらいましょう。

< 話したことを書きましょう >

まず、イラスト版 p.16 の例をいっしょに読みましょう。これは6課2章の会話2（イラスト版 p.13）を元になっています。

参加者は、6課2章の<もう一度、日常の生活に戻ってみよう>（本書 p.48）で話し合ったことの中から各自のテーマを決め、自分が話したことを、短い文章にまとめてみましょう。「です・ます」体で書くか、普通体で書くか、学習者のレベルやどちらの文体に馴染んでいるかなどを考慮して決めてください。

日本人も書いてください。ペアになって交換して読んで、必要ならよく話し合った上で訂正しましょう。話しことばと書きことばはどんな点がちがっているか、気づく機会にもなります。